

第69回宇宙科学技術連合講演会 発表報告

日 程 令和7年11月27日(木)
場 所 札幌コンベンションセンター
発表者 1年生 H×ACT チーム「こんぺいとう」 駿河桜 佐藤瑞希
タイトル 「人工衛星ミッション完了報告と今後の展望」

宇宙関係の学会では国内最大規模である、宇宙科学技術連合講演会で、1年生二人が発表してきました。二人はこの発表のために、5月から準備を進めてきました。7月の論文提出に向けた執筆と、具体的な新提案をめざした作品を、今も現在進行中で制作しています。「人工衛星ミッション完了報告と今後の展望」と題した今回の発表は、今年3月まで行われた、花高スペースプロジェクトの中の短歌発表会の様子を中心に報告した後、今年度の H×ACT が新たに取り組む「SDGs+宇宙」への取り組みを概説し、最後に、二人が取り組む「宇宙ゴミアート」の制作経緯と制作過程を説明しました。発表は、練習の成果を存分に発揮し、大盛況を得ました。発表後にも、多くの方々に激励や助言の声をかけていただきました。「宮沢賢治作品『よだかの星』のよだかを再生の象徴としてとらえるとともに、宇宙ゴミも宇宙開発の証としてとらえることで、両者の認知を社会に広げたい」という発想に、多くの研究者や専門家の方々からお褒めの言葉をいただきました。「宇宙ゴミへのポジティブな発想が素晴らしい」という賞賛に溢れました。

駿河桜さんの感想

今回の学会発表では、「宇宙ゴミアート(再生の星計画)」について、自分たちが積み重ねてきた考察を多くの方々に共有する貴重な機会を得ました。準備の過程では、限られた時間の中で最も重要なポイントをどのように効果的に示すか、試行錯誤を続けていました。

発表当日は緊張しつつも、自分たちの視点や仮説をできる限り明確に伝えようと努めました。宇宙ゴミを単なる廃棄物としてではなく、新たな価値を生み出す可能性を持つ素材として捉えるという発想に、興味深い反応を示してくださる方が多く、その一つひとつの言葉が印象に残りました。質疑応答は、思考の幅をさらに広げてくれるものでした。

今回の経験を通して、私たちの考えを組み立て、他者に伝え、またその反応から学ぶという一連の流れの奥深さを実感しました。この発表を節目としながらも、今後も探究心を大切に、テーマをより多角的に深めていきたいと思えます。

佐藤瑞希さんの感想

初めての学会で不安だらけで、自分達の発表を受け入れて貰えるのか心配だったのですが、発表の後色々な方々から「面白い発想だね」「応援してるよ」「こうするともっと良くなるよ」など激励の言葉や研究に対してのアドバイスを頂きとても嬉しかったです。自分達の意見を発表することとはとても勇気があることでしたが、勇気を出してしっかり伝えることで色々な方々に受け入れて貰えるのだなと実感することができ、とても勉強になりました。そして、自分は人前に立って話すことが苦手で本番も緊張しましたが、終わった後とても達成感があり、自分の意見を人に伝えることはとても面白いのだなと実感することができました。あと、普段は聞くことのできない企業さんや大学の発表をきいて、沢山の刺激を貰うことができました。宇科連に参加したことで、宇宙に関してもっと興味が湧いたし、自分達の視野もたくさん広げることができました。この学びを活かし、勉強はもちろん、これからの探究活動にどんどん活かしていってより良い物にしたいと思いました。

発表の様子①



発表の様子②



発表の様子③



入口にて



会場の様子

